



## 飲茶とインターネット

台湾に行ってきた。「ウマイ小籠包を食いに！」ではなく、台北にあるミュージアムとの仕事があり、現場で打ち合わせをしてきたのだ。台湾は、2つの点で興味深い。



話を見ると、本体の横にモジュラーケーブルをつなぐジャックが装備されているタイプだった。これなら接続のたびに抜き差ししなくても済むので楽なのだ。台北市内

のダイアルアップ先への接続確認も、東京で済ませている。「これであとは飲茶屋を探すだけだ」と安心した私だったが、電話の近くに妙な機材があるのに気が付いた。3センチ四方くらいの黒いプラスチックから、後ろにケーブルが伸びている。携帯電話の充電スタンドをイメージしていただければいいだろう。中に書かれた説明を読むと、それは何とLAN接続用のポートだった。そして、デスクの引き出しには10BASE-Tの短いケーブルが備品として入っていた。さまざまな国でネット環境の悪さに苦労してきた私は、時代の変遷と台湾のIT事情の先進性ぶりに驚きながら、自分のパソコンに必要な設定変更を済ませた。うまくつながらなかったのも、ビジネスセンターに問い合わせたところ、数分後に技術担当者から電話がかかり、非常に的確な対応で問題を解決してくれた。

まず1つ目は、世界の中でおそらく親日度が高くて、その歴史的経緯や理由はともかく、普通の日本人観光客のオバちゃんが、街中のレストランでまったく遠慮なく「このお店は何がオイシイ？あの人が食べてるのは何？」と日本語で押し通す光景は、ちょっとショックだった。もちろん地元の人々が観光客に慣れているというもあるだろうが、日本に対するイメージの高さはこちらが戸惑ってしまうほどだ。仕事先である新聞社の若い女性は「私たちは日本のトレンドドラマを観て育っているから、日本人はみんなオシャレな都会的マンションに住んでいると思っているのよ」と笑って話してくれた。

2つ目は、世界有数のIT先進地域であることだ。1999年9月に台湾中部で起きた大地震が、パソコンやゲーム業界に与えた影響の大きさは記憶に新しい。また、アメリカに目を転じてみると、ヤフー創業者のジェリー・ヤンに代表されるような、台湾出身のIT業界成功者が少なくない。技術系の名門大学であるMIT(マサチューセッツ工科大学)は、台湾からの留学生の多さに「Made in Taiwan」の略だというジョークもあるほどだ。

さて、世界のどこに行っても、私がホテルにチェックインして最初にやることは、部屋のインターネット接続環境をチェックすることだ。モジュラージャックを探し、電源ソケットの形状を確認し、ノートパソコンをつないでみる。部屋からの接続がどうしても難しければ、ロビーフロアに下りて行ってビジネスセンターを探す。こうやって、イランでもモンゴルでもベネズエラでも、何とか接続を確保してきたのだ。

今回はアメリカ資本のホテル(シェラトン)だったので、あまり心配していなかった。実際、部屋に入って電

実は、デスク上のアダプターと裏のハブ間のケーブルがダメだったと判明。その意味ではやや減点だが、結果的に体感速度512kbpsくらいの高速な常時接続を確保できたことは、かなり嬉しいサプライズだった。設備は全室にあり、1日あたり2,000円程度の追加料金を必要とする。そのホテルでもまだ始めて数か月の新しいサービスだったようだ。羽田から3時間で着いてしまうここなら、仕事も快適にこなしながら、飲茶や夜市を楽しむことができる。私にとっては、海外出張とホテル滞在のイメージが大きく変わってしまうような体験だった。帰国後、興味が湧いたので、東京の有名ホテルの状況を調べてみると常時接続が全室にあるのは、全日空(ANA)とオークラだけだった。

今回はアメリカ資本のホテル(シェラトン)だったので、あまり心配していなかった。実際、部屋に入って電

東京全日空ホテルのインターネットサービス案内  
www.anahotels.com/tokyo/frame/f-inter.html



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)